

沼津市 市立戸田こども園 園長 朝香美智代先生



る地域です。

昭和四十九年開園の戸田幼稚園と昭和四十一年開園の戸田保育所を、平成十一年にひとつの施設に合築した園舎が建設されました。そこには子育て支援センターも併設され、当時は全国的にも珍しく、時代を見据えた幼保合築の建物だったと思います。温もりのある園舎に、戸田地区の方々の子どもの成長を願う思いや地域の発展に対する思いが詰まっていることを、今も感じながら保育にあたっています。

そして、地域の過疎化の進行等を背景に、戸田小中一貫学校の設立と時期を同じくして、令和三年四月に戸田幼稚園と戸田保育所を合併し、幼保連携型認定こども園「戸田こ

本園は、日本最深の海、駿河湾に面し、古くから漁業が盛んな沼津市戸田地区にあります。近年では、世界最大のタカアシガニや深海魚料理、手作りの天然塩である戸田塩など豊かな自然を観光資源として活用し、注目されてい

ども園」として新たな歴史を歩み始めました。沼津市では、公立初のこども園の開設となりました。

園目標は、「ひとりひとりが輝く へだっこ」です。恵まれた自然環境や支援を惜しまない地域の方々に囲まれ、地域密着型の小規模園という特徴を最大限に生かし、園・家庭・地域の三者連携による戸田ならではの多様な体験の場を設けています。

例えば、年長児は園近くにある田んぼの観察から始まり、その農家の方の協力を得て、バケツで自分の稲を育て、脱穀、精米をし、収穫した米でご飯を炊き、戸田塩の製造過程を見学した中で、塩おにぎりを作ります。藁は乾燥させ、正月のお飾りを作り、どんど焼きで焼き上げて煙とともに送ります。米作りの大変さを経験し「一粒を大切にしなきゃ」という気持ちが芽生えま



した。

活動の関連から、十五夜や餅つきなど日本の伝統文化に興味を深まっています。年中児は園近くの梅林にて梅狩りをさせていただいた後に、梅ジュースや梅干し作りを行います。日々の変化を観察し手をかけ出来上がったものを食し「大人になつたら食べる」などという反応もありますが、自分が頑張つて作り上げたものを家族に喜んで食べてもらい、満足気な表情で達成感を味わっています。

これらは、活動の一例ですが、このような経験は園職員だけでは提供することはできません。保護者はもちろん地域の方々の協力があり得ることです。園が地域に発信することと「地域で子どもを育てる」ということを実践させていただいているように思います。

保育活動を充実させる核となるのは、園児の気づきや発見、「やってみたい」の気持ちです。それらを認識し保育に励む職員とともに、子ども自らの体験を重視し、地域の大切な宝ものたちを育んでいきたいと思えます。

